



旧川越織物市場保存整備事業

[旧栄養食配給所] 修復調査結果 解体調査報告

旧栄養食配給所とは

栄養食配給所とは、工場食の栄養的改善を目的に昭和初期を中心に全国的に設立されたものです。旧栄養食配給所は、平成17年（2005）に川越市の文化財に指定されており、全国的に数少ない遺構です。建物が空き家となって十数年が経ち、建物の老朽化が進んでいましたが、当時の姿をよく残しています。

栄養食配給所としての機能

昭和初頭の川越は、織物や生糸関係が工場生産へ転換し、そこで働く労働者が増加していました。その労働者に対する食糧供給を行っていたのが、旧栄養食配給所です。

旧栄養食配給所は、配給先である工場の中心部に位置していることや川越織物工業組合関係所有の地であったこと、井戸水が豊富に得られたことなど、栄養食配給所の成立要件を満たしていたため、当該地に設立されたと考えられています。

建物は数度増築されていますが、調理用のカマドの増設もその度に行われており、次第に盛況になった様子が読み取れます。

現在も、直径90cmを超えるカマドが、一列に7基残されており、当時の姿をそのまま残す遺構としては全国的にも唯一のものと考えられ、文化的、社会的意義が極めて高い近代化遺産といえます。

旧栄養食配給所修復調査とは

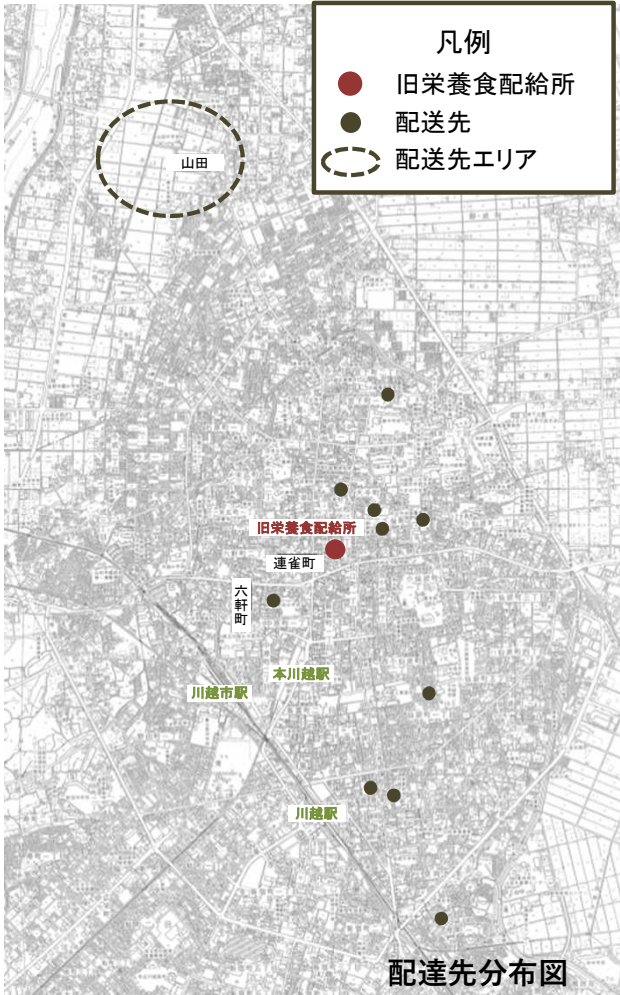
修復調査は、間取りや構造の現状把握、痕跡調査、そして旧栄養食配給所についての資料調査、聞き取り調査を行いました。

旧栄養食配給所の沿革

明治43年（1910）	事務所部分建築	
昭和9年（1934）	栄養食配給所 開業	作業場増築
昭和14年（1939）	住まい等増改築	栄養食配給所として、最も盛んに使用されていた時代と考えられます
昭和20年（1945）	栄養食配給所 閉鎖	
（		数度の改造を行いながら、住居として使用
平成14年（2002）	川越市所有	

旧栄養食配給所の概要

所在地：川越市松江町2丁目12番地4
延床面積：177.47㎡ ※修復調査時
1階面積：144.42㎡
2階面積：33.05㎡

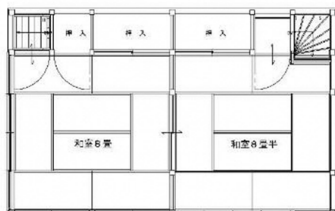


全国の調査結果

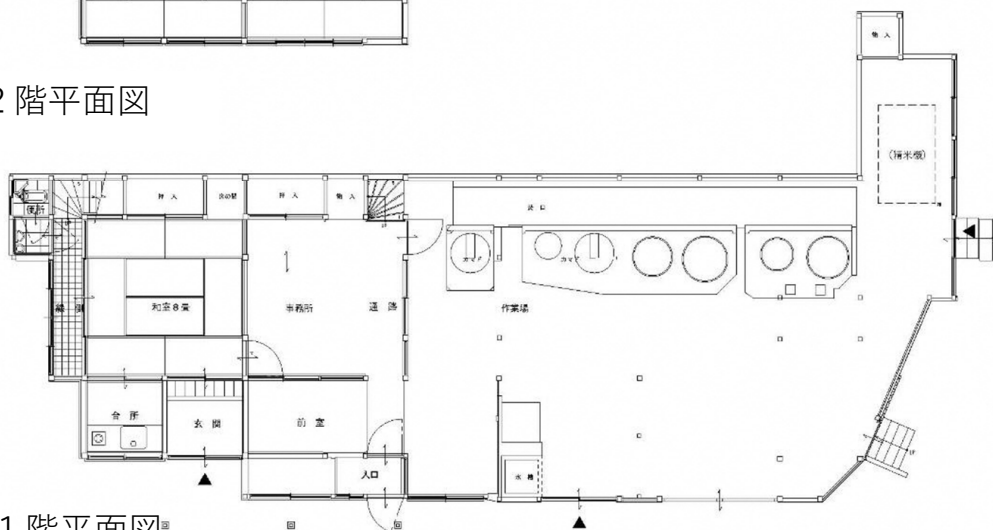
栄養食配給所の存在の可能性がある自治体に対して、残存状況に関するアンケート調査を行いました。（全国67ヶ所の栄養食配給所が対象）

結果、現時点で残存が確認できる栄養食配給所は旧川越栄養食配給所のみであり、アンケート調査対象外であった深川栄養食配給所（江東区）を含めると2ヶ所のみでした。

とりわけ、建物内部の様子や当時実際に使用されたカマドを残す遺構は旧川越栄養食配給所のみです。



2階平面図

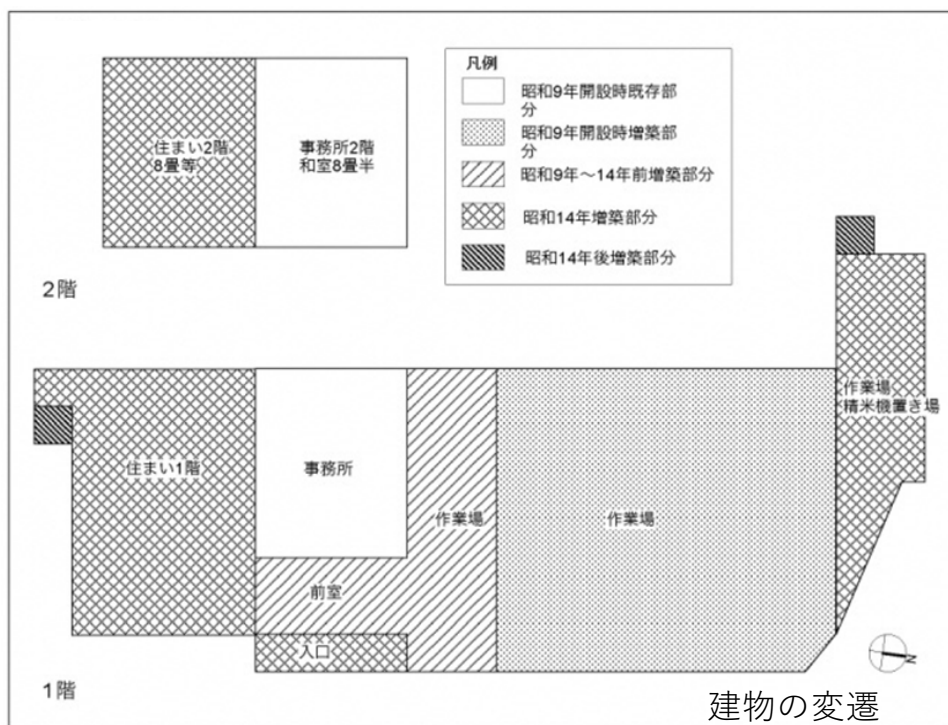


1階平面図

復原平面図

修復方針

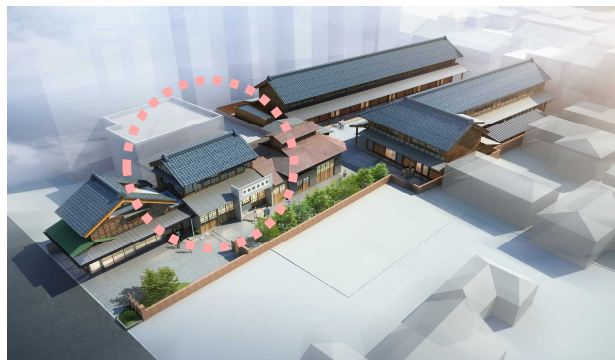
修理復原する時代設定は、旧栄養食配給所として最も盛んに使用され、また根拠が明確である昭和14年の増築時とすることが最良と考えます。



旧栄養食配給所住宅棟解体調査

市指定文化財である旧川越織物市場及び旧栄養食配給所は、産業遺構として希少性が高いことから、保存のための復原を行うとともに、アーティストやクリエイターが創業支援を受けながら活動を行う「文化創造インキュベーション施設」として活用するための整備を進めています。

令和元年度は、旧栄養食配給所住宅棟のすべての部材を解体し、部材の損傷状態の調査を行う全解体調査を実施しました。



解体前



解体後



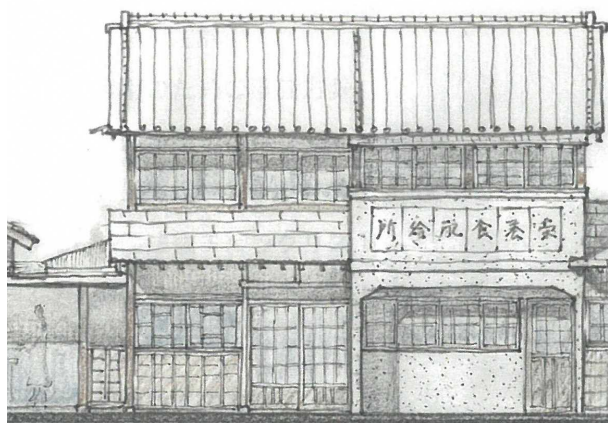
足場設置



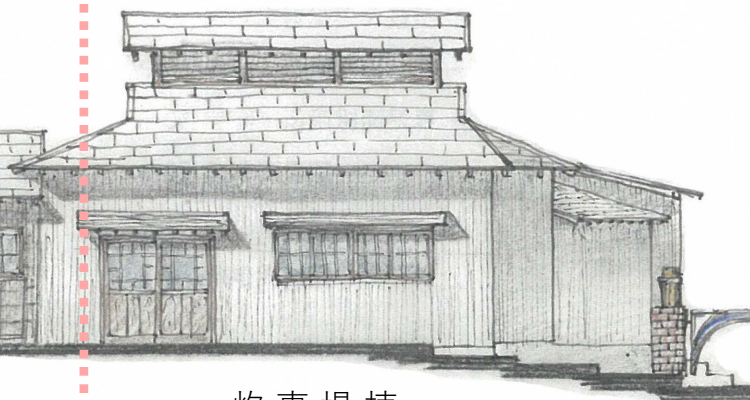
軸組解体中



筋交い補強



住宅棟



炊事場棟

屋根解体の流れ



瓦葺き



土葺き



杉皮葺き



野地板



板に「栄養食行」と書かれています。増築の際に、すでに栄養食配給所として使用されていた裏付けとなります。当時は、増築が必要となるくらい盛況だったことが伺えます。

部材を傷付けないように釘を取ります。



01 看板の一時保管



看板を養生して
慎重に撤去します

1本1本に
番付します。



解体時に損傷状況を確認し、使える部材はきれいに保管しました。

壊さないよう
大切に運搬します



03 かまどの養生



復原する建物に
再使用するため
大切に保管します



[旧栄養食配給所]
平成 2 6 年度 修復調査結果
令和 元年度 解体調査報告

令和 2 年 3 月

川越市都市計画部都市景観課
歴史都市整備担当